# HAIL HAIL HAIL TOOLS PRO SHOP KIKAIYA

# エンジンクレーン 3 トン 取扱説明書

【品番】SET-EC-8

この度は、KIKAIYA「エンジンクレーン3トン」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

- \*この取扱説明書は、商品の正しい使い方やメンテナンス方法、使用上の注意について記載しております。
  - \*本書を最後まで必ずお読みいただき、商品を正しく取り付し、お使いください。
    - \*本書が必要になったとき、すぐ利用できるように大切に保管してください。

# コバヤシデンソー株式会社

〒720-0843 広島県福山市赤坂町赤坂 1415-3 (MAIL) info@kikaiya.com

## ■調査及び修理をご依頼の前に

- \* 故障とお考えの前に、弊社までご相談ください。
- 改造により故障及び損傷した場合は修理対応できませんのでご注意ください。
- \*調査を依頼される際の送料は、お客様のご負担となりますのであらかじめご了承ください。
- \*製品改良の為、予告なく仕様を変更する場合がございます。

## ■開封時

開封したらすぐに中身/動作を確認してください。

付属品の欠品、破損等がございましたらすぐに販売店にご連絡ください。

※商品は到着しましたら7日以内に必ず開封して中身/動作をご確認ください

# ■仕様

#### 【注意】

- 下記に記載しております吊り上げ荷重はブームを(45 度以上起伏)した状態での計測です。
- ・実使用ではこの限りにはなりませんので、ご注意ください。
- ※ブームを倒すと吊り上げ荷重は大きく低下します。

#### 【吊り上げ荷重】

ビームの長さ	能力	実使用荷重
1320mm	3トン	1000kg
1520mm	2トン	860kg
1720mm	1.5トン	730kg
1920mm	1トン	600kg

<sup>\*</sup>ビームの調整間隔=200mm

# ■注意事項

- 能力以上の使用は行わないでください。吊り上げ荷重以上で使用されると故障や事故の原因となります。
- 不安定な場所での使用は行わないでください。エンジンクレーンが倒れる恐れがございます。
- 荷を持ち上げる前にキャスターがしっかり接地しているか必ず確認してください。
- ナットやボルトは規定のものを使用してください。粗悪品、代替品の使用は控えてください。
- 使用前にナットやボルトがしっかり締まっているか確認してください。
- 脚部の長さは必ず左右同じ長さにしてご使用ください。
- \* 取扱を誤った場合、傷害を負う危険性・物的損害が発生する恐れがあります

# ■使用方法 初回使用時にはジャッキのエアー抜き作業をする事をお勧めします。

- ※ この製品は吊り上げ専用となり、荷を支えるものではありません。荷を保持することはできません。
- ※ 能力以上のものを吊り上げないでください。
- ※ エアー噛みをしている場合、油圧の力が弱くなります。エアー抜き作業を行ってください。

#### 【上げ方】

リリースバルブ①を右回りで閉め、ハンドル②を上下してください。

\*リリースバルブは締めすぎないでください

#### 【下げ方】

リリースバルブ①をゆっくりと左回りにまわし、バルブを緩めます。 バルブを操作して速度調整を行ってください。

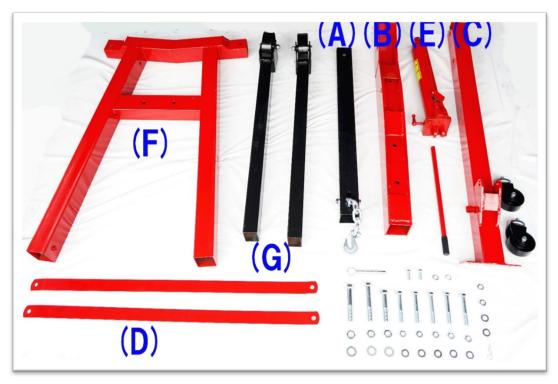
- \* バルブは必ずゆっくりと回してください。
- \* 荷重がかかった状態でバルブを一気に回すと急激に下がるため危険です

# ■エア一抜き手順

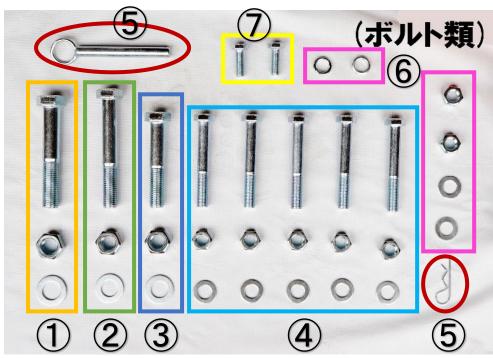
- 1. ジャッキが下がった状態で、図の給油口をペンチ等でつまんで内部のエアーを抜いてください。
- 2. 図の①のリリースバルブを緩めた(下降状態)で、②のレバーを 10 回ほど上下に動かす(ポンピング) してください。
- 3. 図の①を確実に締めて(上昇状態)、②のレバーを上下に動かすと正常に動作します。
- 4. 上昇が改善されない場合は、手順2の工程を2~3度繰り返してください。
- ※ 上記の作業で改善されない場合は、オイル不足・ポンプ ASSY が原因での動作不能と考えられます。
- ※ 下記画像は本製品とは異なりますが、手順・位置は同じになります。



# ■パーツー覧



Α	ブーム(伸縮部)
В	ブーム
С	支柱
D	サポートバー
E	油圧シリンダー
F	ベース
G	脚部(伸縮部)



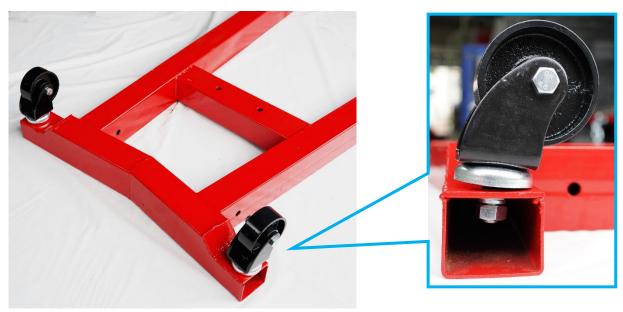
# <組立て手順>



- ・前ページ(P4)の「パーツー覧」を確認し、不足がある場合は 組立て前に販売店へお問い合わせください
- ・前ページ(P4)の「ボルト類」を確認しながら組立てます
- ・組立ては2名以上で作業してください

# 【 1 】 「ベース(F)」に「キャスター(6)」を取り付けます。

1. ボルト類⑥(ナット/ワッシャー/S ワッシャー)を使用し「ベース(F)」に「キャスター(6)」を取り付けます。



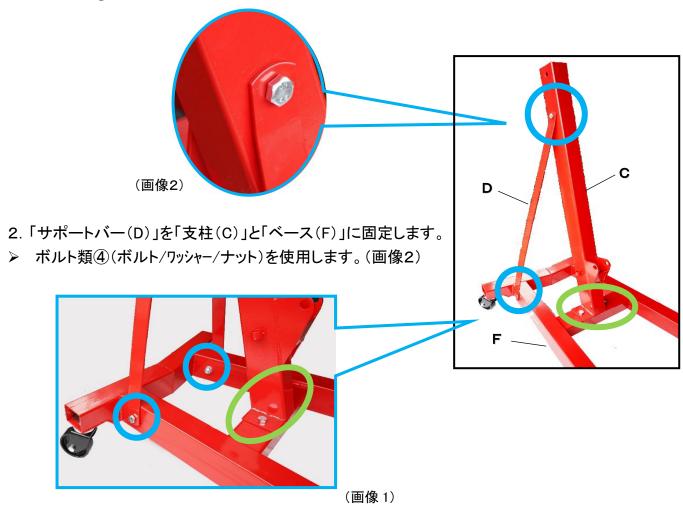
# 【 2 】 「ベース(F)」に「脚部/伸縮部(G)」を取り付けます。

1. 「ベース(F)」へ「脚部/伸縮部(G)」を挿し込みます。



# 【 3 】 「ベース(F)」に「支柱(C)と「サポートバー(D)」を取り付けます。

- 1. 「ベース(F)」に「支柱(C)」を固定します。(画像1)
- ▶ ボルト類④(ボルト/ワッシャー/ナット)を使用します。



# 【 4 】「<u>ブーム(B)」を「支柱(C)」に取付ける。</u>

- 1. 【3】で組立てた「支柱(C)」へ「ブーム(B)」を取付ける。
- ▶ ボルト類②(ボルト/ワッシャー/ナット)を使用します。



# 【 5 】「<u>支柱(C)」に「油圧ポンプ(E)」を取付ける。</u>

※この作業をする時は「ブーム(B)」を 45 度以上に持ち上げる必要があります。 ※この作業をする時は「油圧ポンプ(E)」のシリンダーを伸ばして取付ける必要があります。

- 1. 「支柱(C)」に「油圧ポンプ(E)」を置いて固定します。(画像 1)
- ▶ ボルト類③(ボルト/ワッシャー/ナット)を使用します。
- 2. 「ブーム(B)」に「油圧ポンプ(E)」の先端を取付けます。(画像 2)
- ▶ ボルト類①(ボルト/ワッシャー/ナット)を使用します。



(画像1)

# [6]

### 「ブーム(B)」に「ブーム/伸縮部(A)」を挿し込み「ロックピン」で固定します。



# 【 6 】 全てのネジをしっかりと締めて完成です。

1. 全てのネジをしっかりと締めてください。



# ■メンテナンス

- オイルの補充や交換をする際は ISO VG15 などの高品質な作動油を使用し、混ぜ物は使用しないでください。
- ブレーキ液、アルコール、グリセリン、添加剤が含まれたオイル、汚れたオイルの使用はできません。
- 不適当な流体を使用した場合、製品が故障する危険性がございます。
- オイルを補充する際は、ゴミやホコリ等異物が混入しないよう細心の注意を払ってください。
- 油圧シリンダーや上昇用ハンドルのプランジャーにサビや腐食がないか 3 ヶ月おきに点検を行ってください。
- サビや腐食を防ぐために定期的にオイルを染み込ませた布で製品を拭うことをお勧めします。
- 長期間使用しない時は折りたたんだ状態で保管してください。

# ■トラブルシューティング

問題	原因	解決方法
▶荷を支えない	●バルブシートの不良	1. ブームを下げる
		2. リリースバルブを閉め、注油口の栓を外す
		3. ブームを手で持ち上げられることころまで上げ
		る
		4. リリースバルブを開けてブームを下げる
		5. 試運転をし、正常に稼働するか確認する
▶荷が上がらない	●エアー噛み	● エア一抜きの作業をする
▶荷が最大まで上がらない		1. リリースバルブを開け、注油口の栓を外す
▶ポンプが不安定		2. ポンプを数回大きく手で漕ぎバルブを閉める
▶ポンプが完全に下がらない		
▶ポンプが最大まで上がらない	●タンクがいっぱいになって	1. 注油口を外す
▶ポンプが不安定	いる	2. オイル量を確認する
	●作動油不足	3. 正常位までオイルを補充する
▶ポンプが不安定	●ポンプのカップシールが	● 新しいものに付け替える
	悪くなっている	
▶ブームが完全に下がらない	●エアー噛み	● エア一抜きの作業をする
	●可動部の油切れ	● 可動部に注油をする

# ■パーツリスト

番号	名 称	個 数
Α	ブーム(伸縮部分)	1
В	ブーム(大)	1
С	支柱	1
D	サポートバー	2
Е	油圧ポンプ	1
F	ベース	1
G	脚部(伸縮部分)	2
1	ボルト M16×100	2
2	車輪	2
3	ブッシング	2
4	ベアリング	1
5	ナット M12	2
6	車輪	2
7	ジャッキハンドル	1
8	ボルト M16×110	5
9	ナット M16	8
10	スプリングワッシャー	2
11	ワッシャー 16	3
12	ネジセット M12×20	2
13	ボルト M20×100	1
14	ナット M20	2
15	ボルト M22×125	1
16	ナット M22	1
17	ボルト M20×135	1
18	フック&チェーン	1
19	ロックピン	1
20	ボルト M16×100	1

